

CO₂削減で明るい経営！

本紙×ディエスジャパン

脱炭素アプリ・ファストカーボン
会社の会計情報（電気やガス代などの光熱費、交通費、出張費など）からCO₂の排出量を算定できる。

地球にやさしい脱炭素経営で中小企業を元気に！と、日本一明るい経済新聞とディエスジャパンは

紙面を通じて中小企業のSDGsの取り組みを応援します。脱炭素経営は省エネ、コストダウン、全社

一丸の経営を実現、会社の元気力をさらに高めるプロジェクトでもあります。

万博に続いて大阪・関西から脱炭素経営で中小企業パワーを高めます。

総合力で脱炭素経営支援！

ファストカーボンを導入

計装システムを中心とする総合エンジニアリング商社のマコト電気（☎06・7175・7950）は、設備やシステムの運用技術ノウハウを活かし、脱炭素経営をサポートする。ディエスジャパンと連携してファストカーボンを導入、OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーションにも加盟し、CO₂削減など脱炭素活動を社内外へ広げようとしている。

総合エンジニアリング商社の

マコト電気

大阪市北区梅田3丁目の毎日インテシオに本社を置く。昭和21年創業。戦後間もない大阪天王寺の焼け野原で、「電気・ガス・水などの社会インフラ復旧の一翼を担うため、計測器の修理・サービス・販売」をスタートさせた。「総合エンジニアリング商社として、社会の発展、未来の創造に貢献したい」と、上村武社長は経営理念を話す。従業員は約100人で年商は約70億円。来年1月には創立75周年を迎える。インフラ及び生活物資の安定供給に貢献、人々の暮らしを豊かにし、長期にわたって黒字経営を続ける明るい会社だ。

各社現場で培った「運用技術（OT）

を活かし、設備やシステムをコーディネートできる総合力が強みです」と、樽谷昌範取締役営業本部本部長。制御を加えた計装システムも展開する。

得意のエンジニアリング力を活かし、企業の課題でもある人手不足（自動化）、省エネ（最適化）そして気候変動

対策（脱炭素施策）を支援。その一環で2023年にはフロントビジネス推進グループを発足した。

具体的には、脱炭素、資源循環、再生可能エネルギー（太陽光他）など脱炭素経営や気候変動対策を意識した新規事業に取り組む。「昨年ファストカーボン販売会社、ディエスジャパンさんに出会い、まず当社自身がCO₂排出を可視化して自らCO₂を削減しなければならなかったと感じました」と、宅和誠営業本部フロントビジネス推進グループリーダー。

他社でもCO₂排出の算出手法もあったが、「コストやディエスジャパンさんのしっかりした面談、相談ができたことで



決めました」と。昨年11月にはファストカーボンを正式に導入、まずは自社のCO₂削減に取り組む。

今年5月には、企業が温室効果ガスの排出削減目標を設定していることを示すSBT（国際認証）をバックキャストテクノロジー総研の協力のもと

取得。デスクトップパソコンをノートパソコンに変更、モニターを減らしパソコンの消費電力4割削減した。エコアクション活動の経験もあり全社一丸で推進、今後1回の更新で2030年まで4・2%／年のCO₂削減を目指す。

脱炭素経営は、中小企業の認識もジワジワと高まっている。特にサプライチェーンからの問い合わせが増えている。「それぞれのお客様の特性にあったご提案で“脱炭素経営”を支援していきたい」と樽谷取締役。最近では、企業だけでなく自治体に対しても、脱炭素セミナーなどで登壇する。ステークホルダーの皆様と相互協力を深めながらDXとGXの強みを活かし、脱炭素関連の新規事業領域を広げ創立100周年に向けて挑戦している。

SBTを取得！
ディエスジャパンと連携

中小企業のCO₂排出量

即座に算定！

脱炭素経営を推進する「OZCaF」（OSAKAゼロカーボン・スマートシティ・ファンデーション）。脱炭素社会実現へ、大阪府・環境省・その他自治体、民間企業、大学やその他団体が知恵を絞り、産官学が一体となって活動。持続可能な社会を目指し、大阪・関西からSDGsの目標達成を進める。

脱炭素経営を実現する最強の武器が、CO₂排出量を簡単に算定できるクラウドシステム「ファストカーボン」だ。会社は、現在のCO₂排出量を把握しないと、取り

組む努力目標値も見えてこない。会社の会計情報、電気やガス代などの光熱費、交通費、出張費などの会計情報からCO₂の排出量を算定できるソフト。

脱炭素の専門的な知識が全くななくても、CO₂排出量が簡単に可視化できるのが特色。パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標であるSBT認定取得にも挑戦できる。

＜詳細＞ファストカーボン
<https://fast-carbon.com/distr/dsj/>

